サンシャイン水族館 サンゴプロジェクト

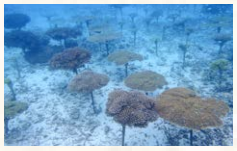
サンゴたちの様子など、最新情報をご紹介します！ 2024年 3月

サンゴメンテナンスの活動報告

サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

倒れたサンゴ…それでもサンゴは大活躍！?

サンゴ礁再生プロジェクトが始まって約9年経過。恩納村海域のサンゴたちは、年を重ねるごとにすくすくと育ち、1m以上の大きさにまで成長しました。サンゴたちは塩化ビニル製のパイプと鉄筋を使ったひび建て式で育成していますが、成長によるサンゴの重さに耐えきれずパイプごと折れ、砂地に落下するサンゴたちも…。



順調に育っていましたが…

ポッキリ折れ落下したサンゴ

サンゴに集まる魚たち

サンゴに産み付けられたイカ（コブシメ）の卵

サンゴを住処とするウミヘビ

しかしサンゴの生命力は強く、砂地に転がっても太陽光が当たる部分は、まだまだ元気な姿を見せてくれました！ 自然界でも台風の影響など強い波浪によってサンゴが吹き飛ばされてしまうことがあります。そのまま死んでしまうサンゴもあれば、流されたその地で成長していくサンゴもあるのです。ちなみに落下したサンゴには小さな魚やウミヘビを確認、生き物たちの隠れ家や住処となっていました。私たちが作業をしていると、“にょろにょろ”と姿を現してくれます。サンゴは生き物たちの“住処”や“ゆりかご”であり、海の豊かさには必要な存在なんだと改めて気づかされました。

もっともっと大きく成長していくことがうれしくも、「倒れないでいてね」と願うばかりです！

待望の産卵

2022年の産卵に立ち会えなかった反省点を生かし、2023年は予想の精度を高めるべく、事前の情報収集と複数のプランを用意して臨みました。しかしやはり自然相手…一筋縄ではいきません。サンゴの成熟度が思っていたよりも進んでいなかったり、台風の発生で足止めされたり、何度もプランを変更しました。

まずは先発隊として、6月6日に沖縄へ。一部のサンゴは産卵を終えたような印象を受けましたが、まだ卵を保有している群体も見られ一安心。卵の様子を確認しながら4日ほど待機していましたが、産卵は確認できませんでした。すかさずプランを変更し、次の潮まわりに最後の望みをかけ東京へ戻ることにしました。

産卵まであと一歩

産卵を待つスタッフ

バンドルセット確認

卵と精子がつまったバンドル

6月18日、再び沖縄へ。狙っていたサンゴはまだ卵を保有していました。祈りが通じたのか、6月19日夕方、産卵の合図“バンドルのセット”を確認!!

3年ぶりのサンゴの産卵に立ち会うことができました！

サンシャイン水族館 サンゴプロジェクト

サンゴメンテナンスの活動報告

2024年 3月

サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

海中に響き渡る高音！？ そして、新たなステージへ…

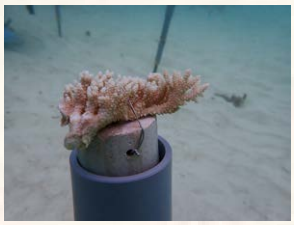
サンゴ礁再生プロジェクト開始当初から育成中のサンゴは順調に成長。周囲に生息するサンゴの数も増えてきたような印象があり、うれしい限り♥ そしてサンシャイン水族館では、恩納村漁業協同組合のみなさまと相談し、別のエリアでもサンゴの育成・産卵による新たなサンゴの供給を目指すことにしました！

打ち込み後のひび建てサンゴ（全体）

まずは、サンゴを育成するためのひび建ての準備からスタート！ 鉄筋を砂底に打ち込む作業を行います。ハンマーを用いて一打ずつ“カンッカンッ”と鉄筋を打ち込んでいきます。高音を海中に響き渡らせながら作業を行い、30本の鉄筋を打ち込みました。これがとてつもなくハードな作業、そして少し波のあるコンディションだったため体力の消耗MAXで、終わった時にはみんなヘロヘロ…。いざ、サンゴを設置し、全体を見回すと…それぞれが左右斜めに打ち込まれており、ガタガタでした…。

しかし、何事も経験！ということで、実施することの少ない作業ではありますが、この結果を心に刻み、次はまっすぐに打ち込めるよう頑張りたいと思います。設置したサンゴも、これまでのエリアとの環境（深さや光環境）の変化によって、どんな成長の違いがあるのか、これからの成長過程を追っていき、また報告します。

打ち込み風景


設置したサンゴ

苦労して設置したひび建てサンゴ。しかし… （TOPICへ続く）

TOPIC 地形を変えた！？台風の脅威

2023年8月、台風6号の進路を覚えていますか？ 沖縄本島に2度も再接近し、長期にわたり居座っていたあの台風です。恩納村でも被害は甚大で、強風や大雨による生活への影響は大きかったと聞きました。そして、その影響は海の中にも…。新エリアで育成中のサンゴの様子を観察しに訪れたのは10月のこと、天気も海況も良いダイビング日和でした。目指すべきポイントに向かって泳いでいると、すぐに違和感を感じました。

「あれ…？この前来た時と、何か違う気が…。」

サンゴを再設置

サンゴが抜けて
空になったひび建て

改めて全体を確認すると、30本セットしていた鉄筋の数が足りません。サンゴも半分以上流失していました。このエリアは潮通しがとても良いのですが、どうやら台風の波浪により砂地とともに打ち込んだ鉄筋が流され、波浪の乱流によりサンゴが流されてしまったようです。私たちの想像のはるか上を超えていく自然の脅威に圧倒されるしかありませんでした。その後、流出してしまったサンゴの代替を準備し、リセット。

新たなエリアはまだまだ予測不能ですが、引き続き観察をしていきます！

サンシャイン水族館 サンゴプロジェクト

サンゴメンテナンスの活動報告

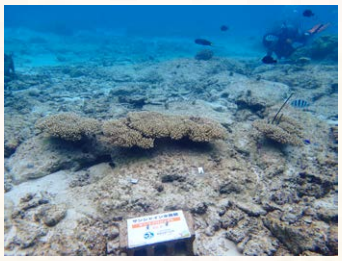
2024年 3月

サンゴ返還プロジェクト 活動報告

引き潮の海

「海での作業をする日は、海が穏やかな日であってほしい！」サンゴのメンテナンスに行くときは常々思います。海中のコンディションは天候によって左右されますが、潮の満ち引きにも左右されます。満潮へ向かうタイミングでは、海の水が岸の方に押し寄せ、干潮へ向かうタイミングでは、海の水が沖の方へ後退します。12月のメンテナンスでは、干満へ向かうタイミングで岸に向かう方向へ海中を移動しなければなりませんでした。海の水の流れる方向に逆らって移動しなければいけなかったのです…。

たくさんのメンテナンス道具を運ぶ



サンゴは元気に成長中！

潮の満ち引きは“ゆっくりとしたもの”というイメージがあるかもしれませんが、地形によっては強い流れになることも。サンゴメンテナンスではメンテナンスに必要な道具をたくさん持っているので、水の抵抗も大きく、漕げども漕げども進まない…！斜めに進んでみたり、岩陰に隠れてみたり、地面に手を突き刺して移動してみたりしてなんとか目的の場所まで辿り着きメンテナンスを開始。サンゴたちの元気な様子が確認できました！

ちなみに往きはしんどい思いをしましたが、帰りは楽々でした！

スタッフ一言メモ

初参加でいろんな経験と発見がありました！

今年度からサンゴプロジェクトに参戦しました、魚類担当のMです！昔からサンゴやサンゴ礁の海が好きで興味はあったのですが、実際に海中でメンテナンス、移植、産卵の観測まで行ったのは初めてで新たな発見の連続でした！天候に左右されやすい現地の活動で苦難することも多かったですが、その分サンゴに思いを馳せた1年となりました！(Y.M.)

10年ぶりの参加で感動と驚きが！

約10年ぶりの参加になる魚類担当のSです。私が最初に参加した頃は数cmで移植したサンゴが20cmぐらいまで成長して“大きくなったなぁ”と思っていましたが、今では1mほどまでに育ったサンゴがいたり、移植場所の数も移動に苦労するぐらい増えていたりと、見違えるように成長したサンゴと、大きくなった取り組みに感動と驚きでした。報告で見聞きするのと実際に自分の目で見て感じるのは違うなぁと改めて思ったサンゴメンテナンスでした。(H.S.)